

異 国 の J A P A N E S E

原色の愛に抱かれて

家田莊子



著者紹介

家田 莊子

1958年愛知県生まれ。日本大学芸術学部卒。高校時代から劇団に所属して女優を目指し、藤田敏八監督作品などに出演。写真を手に自らを売り込みに行った出版社で、編集者に勧められたことが転機となりライターになる。繁華街の風俗レポートを皮切りに、デビュー作『俺の肌に群がった女たち』、続いて『極道の妻たち』『代議士の妻たち』など話題作を次々と発表。1991年4月、エイズ患者と共に生活した1年のルポ『私を抱いてそしてキスして』で、第22回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。その体当たりの取材力には定評がある。現在は米軍関係者の夫、愛娘と共にハワイ在住。本書はリゾ・ラバを求める深層心理という見地から、揺れる日本女性の存在を浮き彫りにしたハワイ・ルポである。

原色の愛に抱かれて

著 者 家 田 莊 子

発 行 者 小 澤 源 太 郎

発 行 所 株式会社 青春出版社

東京都新宿区若松町12番1号☎162

振替番号 東京9-98602

電話 編集局 03(3203)5123

営業局 03(3207)1916

印 刷 堀内印刷 製 本 誠幸堂

万一、落丁、乱丁がありました節は、お取りかえします。

ISBN4-413-03025-7 C0000

© Shōko Ieda 1992 Printed in Japan

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写(コピー)することは著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。

異国の *Japanese*

原色の愛に 抱かれて

家田 莊子



はじめに

空と同じ青さを持つ海。透明な陽光、乾いた海風、素足にまわりつかない白い砂、前方に壮大に広がる虹。コパトーンの匂い。真っ赤なハイビスカス、空に向かって伸びるバームツリ……。

そんなハワイの情景に、陽気なリゾ・ラバたちの真っ白い歯が、よく映える。

リゾ・ラバー——リゾート・ラバーの略で、和製流行英語である。リゾート地での恋人という意味で、日本でマスコミなどを通じて、よく使われるようになって、2年近くになると思う。

私は、3年ほど前から、夫の仕事の関係でオアフ島のホノルル市内に住んでいる。

1週間に3度以上は、ワイキキに出かけ、ビーチや、カラカウア大通りや、アラモアナ・シヨッピングセンター内のベンチに腰をかけ、日本人ウォッチングをしていた。

日本とハワイを仕事で1年に6回以上、往復するというのに、ハワイにいる時の私は、日本に飢えている。だからハワイにやって来る日本人を通して、日本を肌で感じ取りたかったのだ。住んでみて、初めて見えて来ることは沢山ある。

たとえば、親父たちの買春旅行、企業の接待旅行、ドラッグ、不動産進出、ブランド製品の

買い漁り……。

そんな中で、私の視線を一番奪って行ったのは、アメリカ男性と、日本女性のカップルの姿だった。夫がアメリカ人だからということもあり、潜在的に興味があったのかもしれない。

（随分、多いんだなあ……）

と思いながら、私の目は、いつも彼女らを追っていた。

ところでワイキキの街中で、日本女性は、特に目立つ。容姿もファッションも、群を抜いてステキだからだ。肩から下げているのは、買ったばかりのシャネルや、ルイ・ヴィトンのバッグ。陽焼けてピンクに染まった首にぶらさがっているのは、ティファニーのオープン・ハートのペンダント。20代の仲間入りしたばかりのような日本女性まで、高価な物を身につけて歩いている。

その姿は、羨ましい気持ちも半分あったが、同じ日本人である私の目に、とてもかっこよく映っていた。

ところが、アメリカ男性と一緒にいる日本女性を観察してみると、どこか、何か違うのだ。確かに六本木や基地周辺あたりに出没するようないかにも、「外国人大好き」といった派手で元気いっぱいの子たちもワイキキに沢山いる。一部脱色した髪をライオンのように立たせて、やたらと大きくして、ラメ入りピンクの口紅とか、パール入りアイシャドウとかで、

派手な顔づくりをして、スタイルの抜群にいい陽焼け肌の女の子たち。しかし、ハワイの街で多く見られるのは、このタイプの女の子たちじゃない。ごく普通の化粧をして、ごく普通の髪型をし、ごく普通のスタイルをした女の子たちなのだ。普通というと、語弊があるかもしれないが、ライオンヘアをしている子たちではないのだ。見るからに外国人を好きそうな女の子でないタイプの子たちが、アメリカンと歩いている。

もう1つ、私が、どこか違うと思ったのは、この2人を取り囲む雰囲気だった。何だか2人の間には、とても妖艶な、それでいて生々しいというか、熱いムードが漂っているのだが、なんとなく仕草とかから、乾いた関係が垣間見られるのだ。外国人大好きという女の子たちは、体も心もストレートでホットな部分を惜しみなく漂わせていることが多いのだが、彼女たちからは感じ取ることができない。

体はホットなのに心の中がドライしている関係……やがて私は、リゾ・ラバとの恋に気がついた。

時間をかけて今度は、アメリカ男性の方を観察していくと、ディスコや街なかで、毎回違う日本女性をつれている男性や、日本人専門のプレイボーイとして有名な男性が浮き上がって来た。

8年ほど前、私は黒人に群がる日本女性をレポートして、『俺の肌に群がった女たち』を発

表した。あの時、どこから見ても華やかに見えた日本女性が、実は愛を貫く古風なタイプの女性たちであることを発見した。

あれから8年経って、場所もハワイになった。ハワイでアメリカ男性と歩いている日本女性のタイプが変わった。

なぜ彼女たちが、ホットなのにドライに見えるのか、彼女たちの実態を通して、その理由を知りたいと思った。

さて、本文中に掲載されているエピソードは、ある一部の男女に関することであって、すべての外国人十日本人のカップルに、あてはまることではないということをこの場をお借りしてお断りしておきたい。

ハワイで日本女性とつき合っているアメリカ男性すべてがリゾ・ラバではないし、日本女性すべてが、本文中のような言動を取っているわけではなく、あくまでも一部であるということ覚えておいていただきたいと思う。

しかしながら、リゾ・ラバを通して語った彼女たちの奥深くにある気持ちというのは、決して特別なものではないと思う。

彼女たちの科白の中に、もしかしたら自分との共通性を見つけ出せるかもしれない。ただ、

それが一瞬だったか、持続しているものなのか、あるいは彼女たちのように言動に出せたか否か……という所に、違いはあるかもしれないが。

彼女たちの求めているものは、別世界の人が求めているそれではなくて、心の襷ひだを何枚もめくって行くと、きっと私たちの心の中からも見つけ出せると思う。

もしかしたら、今日、海外に飛び立ったあなたが、明日、現地の男性と出逢うかもしれない。その時に自分の心の奥深くに存在していた、自分でも気がつかなかった何か新しい気持ちが開花するかもしれない。それは、愛という形で出てくるかもしれない。リゾ・ラバに捧げる愛は、一部の女性たちの愛の形かもしれないが、その心理というものは、きっとどこかで共鳴できるものがあると思う。

私が、そうであるように。

さて、本文中に登場する人物——特に男性に関して、取材の際に、「本人と限定されないように描く」という条件に同意しているため、仮名、一部名称などを変更してある。

なお、本文中及び巻末に掲載されているアンケートは、日本で、外国人男性とおつき合いをしている（あるいは関係を持っている）14歳〜40歳の日本女性、75名を対象に行ったものである。

1991年のクリスマス前後にかけて、横浜「ソウル・ハーレム」「ナスティー」「サーカ

ス」六本木「デジャブ」「ハード・ロック・カフェ」芝浦「ゴールド」にて、すべて記述式で行った。

楽しい時間をさいて協力して下さいった日本女性の皆さんと、協力いただいた各店に、この場を借り、心からお礼申しあげます。

❖
目

次
❖

Ⅰ章 セクシーで自由に 15

——もう一人の自分の発見

男のやさしさが好きだから 16

アケミとロツキー 25

妊娠を武器にして 28

「体は日本人、でも心^{ココロ}は外国人」

「イエロー・キャブ」の意味 39

セックスから始まる愛 42

マユミという名の先生 46

愛の深さを測る「モノ」 52

「もう一人の自分」が見えてくる 57

2章 “愛”を知っている男 63

——リゾ・ラバに魅せられた心

動物的になれない男たち 64

「宝物扱いが何より心地いい」 68

世界一大胆な日本の女の子 72

地上げ屋とキミコとマックと 76

「愛しているのは俺じゃない、自由だ」 79

取り残される独りの辛さ 82

3章 LIKEとLOVEのすれちがい 89

——4泊6日の——LOVE YOU

「私は特別」な女の子たち 90

外人処女^{デビ}のユミ 94

4泊6日の愛のかたち 99

燃えるような恋のウラ側 101

4章

もう

この男^{ひと}しか愛せない

——外国人コンプレックスの光と影 131

変身は、たったの「15分」

日本では得られない感覚

110 106

成田離婚の陰に

113

アイライクユーとアイラブユーの違い

120

「ジャスト・フレンズ」の真意

124

特攻隊・ラルフの場合

132

「私はそんな女じゃない」の奥に

134

あの子、^あしか呼べない理由

139

飢^うえた女たちのブレイキは：

145

最初で最後の英語「マイン」

151

極道の妻とリゾ・ラバ

154

「日本人以外ならOK」というふしぎ

160

セクシーにみせる研究

164

「娼婦のようになってみたい」 166

5章 愛をつないでおきたい理由 171

——危ない女の手練手管てれんてくだ

リゾ・ラバ、アニーは陸軍将校 172

貢いだ後の「愛アイラブユーしてる」 174

見るだけ無駄な危険な夢 182

“指を鳴らすように簡単”なこと 184

ボーイズ・トリー 186

トップ歌手との秘密 189

心をリフレッジュさせる手伝ヘルプい 194

「恥じらい」という仮面を脱いで 198

リゾ・ラバの婚約破棄 203

「彼は黒人として充分じゃない」 205

6章

心の渇きを埋^{うず}めてくれる

——原色の愛に抱かれて

211

「日本女性はオレのビジネス」 212

時間の経った「サシミ」、日本の男

リゾ・ラバは向うからやってくる 217 214

プロセスいらずの恋 219

心の隙間を埋めてくれる存在 221

おわりに

226

装丁デザイン
U・G・サトー

1章
セクシーで自由に
——もう一人の自分の発見